



第32号にあたって

雪国には、待ちに待った桜咲く春が訪れました。新入学や就職などで新たな一歩を踏み出す人も多いと思います。新型コロナウイルスによる行動制限もなくなりましたが、感染は続いていますので、基本的感染対策を行いながら、新しい環境に早く慣れるようお願いいたします。

今回は、病気の知識として、よくみられる「良性発作性頭位めまい症」と最近話題の「麻しん（はしか）」を取りあげました。最終ページには、診療時間、交通アクセス、救急疾患検索サイトのアドレス（QRコード）が掲載されていますのでご利用下さい。



受診時には、引き続きマスクの着用をお願いします！

新型コロナウイルス感染症は、4月からは季節性インフルエンザと同様の通常の医療体制に完全移行し、治療薬やワクチンの公費負担はなくなりました。

当センターでの、発熱患者さんの3月前半の検査結果では、新型コロナ陽性者が約15%、インフルエンザ陽性者が約40%で、まだまだ流行は続いています。感染対策の実施については個人・事業者の判断が基本となりますが、基本的な感染対策（マスク、手洗いや手指消毒、換気など）を行い十分注意して下さい。



病気の知識

良性発作性頭位めまい症

“めまい” だけなら あわてない！”

- 「良性発作性頭位めまい症」は、長くて覚えにくい病名ですが、耳が原因で目がぐるぐる回る“めまい”のなかで最もよくみられる病気です。

【症状】

- 病名に「頭位」とあるように、頭を動かしたときの特定の位置で、急に激しい目がぐるぐる回る“めまい”が起こる病気です。
- “めまい”の起き方はいろいろで、寝返りをうったときや急に振り向いたときなどの横の動きの場合や、起きようとして枕から頭を上げたり、目薬をさそうと上を向いたとき、洗髪で下を向いたときなどの縦の動きなどでみられます。
- 吐き気やおう吐を伴うことがあります。難聴、耳鳴り、耳の詰まった感じなどの聴覚の異常や中枢神経症状（手足のマヒ、言語障害、視力障害など）は起こりません。
- “めまい”は通常1分以内で消失します。
- 交通事故などで頭の外傷を受けた人、あるいは慢性中耳炎のある人などに多く起こりますが、普通の人でも加齢変化などでおきます。60代以上の高齢者に多く、女性に多いといわれています。



【耳の構造】

- 耳は外側から、外耳、鼓膜の奥の中耳、さらにその奥の内耳の三つの部分からできています（次頁図）。
- 外耳から中耳までは音の振動を伝える役割があり、耳の一番奥の内耳は、聞こえのセンサーである「蝸牛」と平衡感覚のセンサーである「三半規管」などがあります。
- 蝸牛と三半規管の間に「耳石器」があり、重力や体の方向を感知します。また、三半規管はリンパ液で満たされ、頭の回転を感知します。

- ・頭部を動かすと、リンパ液の流れが起こり、回転運動なら三半規管内の神経（クプラ）で、傾きと直線運動であれば「耳石器」で感知して脳に情報を送ることで「頭が動いた」とわかる仕組みです。

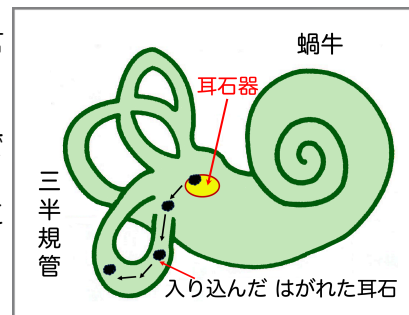
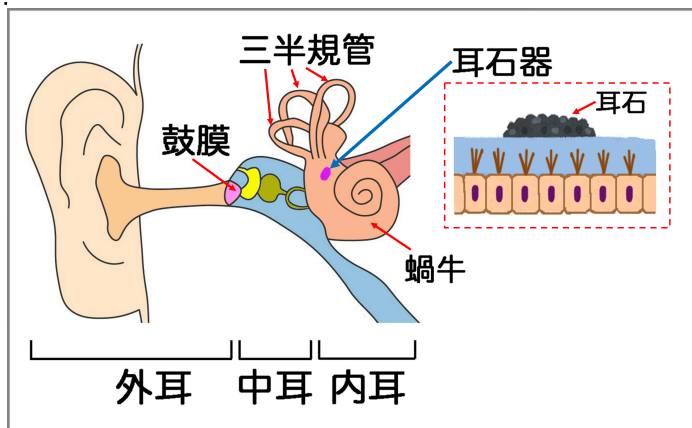
【原因】

- ・「耳石器」の上には、炭酸カルシウムできている耳石が多数のっています。この耳石が本来の位置から脱落して、半規管内に迷入すると、頭を動かすたびに半規管内を移動しリンパの流れを乱れさせ、“めまい”が起きます（半規管結石症、右図）。また、半規管内のクプラに付着しておきることもあり、“めまい”が長く続くことがあります（クプラ結石症）。
- ・耳石は加齢とともに剥がれやすくなるため、高齢者で多くみられるとされています。

【鑑別診断】

- ・似ている病気として「メニエール病」があります。「メニエール病」では、回転性の“めまい”のほかに、聴力低下（低い音が聞こえにくい）、耳鳴り、耳が詰まった感じなどの聴覚症状がみられ、頭の位置に関係なく“めまい”がみられます。

【対処法&治療法】



自宅で様子を見る



- ・良性といわれるように、一般には比較的早いうちに“めまい”はなくなります。
- ・“めまい”が強くなく、ほかの症状がなければ翌日に受診してください。

通常時間に病院へ



- ・診療科は、耳鼻いんこう科です。“めまい”の原因は多いので、くり返し起こるときは放置せず、早めに耳鼻いんこう科を受診してください。
- ・“めまい”が少し軽くなってきたら、積極的に“めまい”が起こりやすい頭の位置をとるといったリハビリテーションをすることも治癒を早めます。
- ・また最近では、「頭位変換療法（耳石置換法）」と呼ばれる、迷入した耳石を元にもどす方法が開発され、良好な成績を上げています。

救急車を



- ・脳が原因ではないので、中枢神経症状は現れませんが、もし、片側の顔や手足のしびれやマヒ、呂律が回らないなどの言語障害、二重に見えるなどの視力障害などがみられたら、脳疾患の可能性があるので、至急脳神経外科または脳神経内科を受診してください。

麻疹（はしか）

“受診前に医療機関に電話連絡を！”

【症状】

- ・麻疹ウイルスによって引き起こされ、1)発熱、2)全身性発しん、3)せき、鼻水、目の充血などの粘膜症状（かぜ症状）を特徴とする急性の全身感染症です。
- ・伝染力が非常に強く、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染します。
- ・免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続します
- ・潜伏期は10から12日で、発熱、カタル症状（せき、鼻みず、涙がたくさん出る）で発症します。“ほっぺた”の粘膜の臼歯^{ひまつ}に面する部位にコプリック斑（白い粘膜疹で、回りが炎症のため赤くなる）が現れます。2～3日熱が続いた後、熱が一時下がり、再び39℃以上の高熱と発疹が出現します。
- ・肺炎、中耳炎を合併しやすく、脳炎が発症することもあり死亡することもあります。



予防



- ・麻疹は感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできません。
- ・重い合併症も多いため、麻疹ワクチンの接種を受けることが大切です。
- ・麻疹は「死ぬこともある怖い病気」ですが、「ワクチンで防げる予防すべき病気」です。

通常時間に病院へ

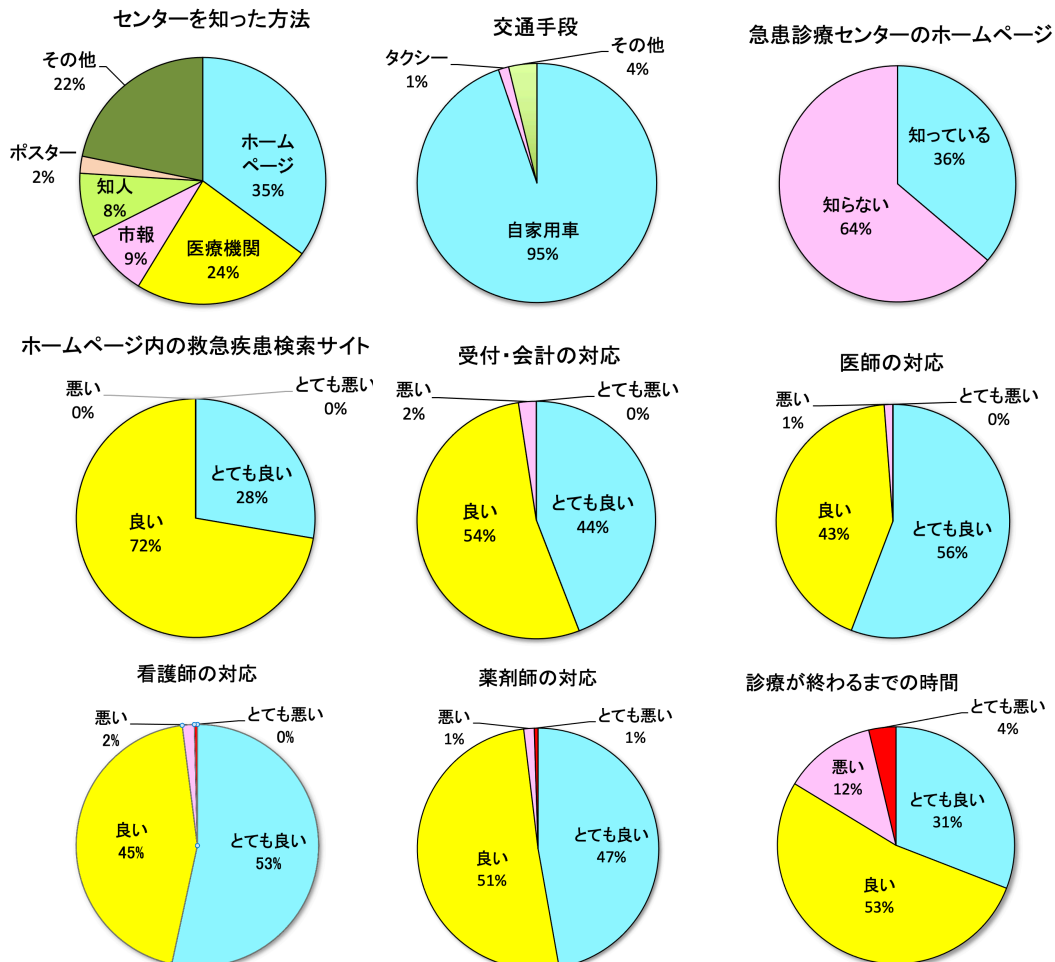


- ・発疹、発熱などの症状をかかりつけ医または医療機関に電話で伝え、受診にあたっての注意点を確認してから、その指示に従ってください。

- ・麻しんの感染力は非常に強いので、医療機関へ移動される際は、周囲の方への感染を防ぐためにもマスクを着用し、公共交通機関の利用を避けてください。
- ・急患診療センターの場合は、受診前に電話連絡をし、受診時には建物内に入らず、玄関の外から到着したことを携帯電話でお知らせ下さい。看護師が出迎え、別建物の専用診察室で対応します。
- ・熱は約1週間続きます。とくに消耗の激しい病気ですから、脱水や合併症には注意してください。
- ・解熱後3日を経過するまでは登園、登校はできません。

急患診療センター 窓口アンケート結果について

当センターでは、毎年受診された患者さんに窓口アンケートを実施しており、昨年11月14日～28日に実施した結果の一部を紹介します。総受診者数1,655名、回答者数292名、回答率は17.5%でした。受診のかたわらアンケートにご協力いただいた方に感謝し、今後の急患診療の質の向上に役立たせていただきます。



Q & A (質問に答えて)

Q：朝の診療時間終了が午前7時なのに、受付時間が午前6時30分までなのはなぜですか？

A：急患診療センターでは、内科、小児科については、毎日、前日夜から深夜を通して朝7時まで診療を行っている新潟市内で唯一の診療所です。しかし、診療については、病院勤務や診療所の医師に、忙しい仕事の合間を縫ってボランティア精神で手伝ってもらっているのが実情です。

大部分の診察医は急患診療センターの深夜勤務が終わると次の予定があるため、午前7時には診療を終える必要があります。そのため、受付時間を午前6時30分としています。診療終了が間近な時間帯での診療希望（電話も含む）については、来院までにかかる時間に加え、容態に合わせた適切な診療を行う時間が足りないと判断した場合には、他の医療機関の受診をお願いすることがあるので、ご理解ご協力をお願いします。診察ができない場合でも、症状に合わせた相談はさせていただきます。

夜間から具合の悪い場合には、できるだけ早めに受診されるようお願いいたします。とくに、小児の場合は、点滴が必要な場合には治療に1～2時間かかりますので、できましたら午前5時頃まで受診するとよいでしょう。

診療時間



★土曜日の在宅当番医

【産婦人科】

午後2時～午後6時
(当番医はホームページ「新潟市産婦人科医会」に掲載されます)

当番医は、当センターにもお問い合わせできます。

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜	午後3時～翌日午前9時 (受付時間：午後3時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
市民に信頼される
救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

昨年の夏は、統計開始以降、最高の猛暑で、東京では64日間真夏日が続きました。また、世界の夏の平均気温も1891年以降最高を記録しました。

気象庁は、今年の夏も地球温暖化に加え、南米ペルー沖のエルニーニョ現象の影響で、猛暑日が増える予想しており、高温をもたらす条件が重なった場合、観測史上最も暑かった昨夏以上になる可能性もあると予想しています。

エアコンの試運転など早めの熱中症対策をお願いします。

新潟市急患診療センター
ホームページ
<http://www.niigata-er.org>

新潟市医師会
救急疾患検索サイト
<http://www.niigata-er.org/search/>

小児救急ハンドブック
(新潟市)
URLは変更になることがあります。

発行：一般社団法人 新潟市医師会
〒950-0914
新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号
TEL 025-246-1199